



VO

JAPAN

UE

Wedding

いちばんおしゃれな
ウエディングガイドブック!

4
夏

ウエディング

2014年6月号増刊

夏のガーデン
ウエディング
特集。

クールに、可憐に
バラ色を纏う。

花婿ファッション
総力14ページ。

独占取材!
荒川静香のウエディング

東洋美容で、
麗しの花嫁になる

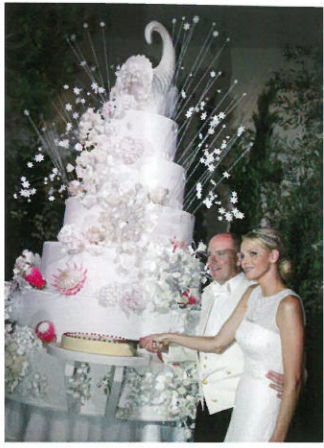
ウエディングヘアと
花の蜜月。

花嫁を彩る、
幸せのジュエリー。

2015年春夏
ブライダル
コレクション速報。

Create Your Wedding

あなたがつくる、オートクチュール・ウエディング。



Prince Albert & Princess Charlene of Monaco



Brooke Shields & Andre Agassi



Ms. B's Cake by SEVVA



Rita Hayworth & Dick Haymes



Jacqueline & John F. Kennedy



Mia Farrow & Frank Sinatra



Quiz: ここでクエスチョン。さて、これは誰のケーキ?



端を食べると幸せになるとか、結婚式を挙げてから一年前、ウエディングケーキを一切れ保存しておくとか、新婚時代を円満に過ごせるなどといったたくさんの言い伝えが残されている。また、花嫁付添い人は良縁に恵まれるようにとウエディングケーキの一部を枕の下に入れて眠ったそう。

今日、ウエディングケーキをどの程度、重視するかは人それぞれだが、それは相当なビジネスになっており、(言うまでもなく)アメリカでは「Amazing Wedding Cakes」や「Cake Boss」など、ウエディングケーキを専門に扱うテレビ番組があるほど。

ところで、私は香港の「セーバ」というとびきりスタイリッシュな店に行ってきたばかりなのだ、オーナー兼デザイナーのボニー・ゴクソンが彼女の時間とエネルギーを注いで最高に繊細で美しいウエディングケーキを作っていて、これが絶品なのである。あまり知られていないのが、これらすべてのウエディングケーキの本質は、ゲストを含めた関係者全員に幸運をもたらすことを目的としたものだという、そして一部のケーキは食べられるのは一段分だけ、残りは飾りだという事実である。しかしながら、習慣は変わってゆくもので、今日では一部のウエディングケーキはほんとうに飾ってあるだけで実際に食されることのない単なる、見せケーキなのだそう。ケーキのつべんに飾ってある小さな花嫁と花婿のケーキトッピング(これは現在ではやや廃れてしまった)は1950年代初頭に始まったものだが、じつは私はいまもこれが大好きである。

これまでにさまざまな変遷を経たウエディングケーキだが、いまも我々にとっては変わらず美しい愛や結婚の真実の証しである質素なパンくずから数千ドルもする高々とそびえる芸術品のようなウエディングケーキまで、実際のところその大きさや形にかかわらず、甘く、思い深いものであれという我々



Let Them Eat Cake

幸せのウエディングケーキをさあ、召しあがれ!

Photo: Mark Pillai
Text: Gene Krell

ほ かの多くの伝統と同様に、現代のウエディングケーキも本を正せば古代ローマが起源であり、その昔は幸運を祈って花嫁の頭上でパンをくずした風習にさかのぼるのだそう。また、中世イングランドでは高く積み上げられたケーキの上で花嫁とキスをすると幸せになれるという言い伝えがあった。しかも、そのケーキが高ければ高いほど、である。そして1703年のイングランドで、いま我々が知っているような初めての本物のウエディングケーキが登場したというのだ(フランス人はこの説に異議を唱えるかもしれない)。あるパン屋の見習い職人が自分が結婚したいと願う相手の気を引きたくて、その女性に豪華なケーキを贈ることにした。とある有名な教会に似せたベストリーを作ったそうだが、これが、彼が夢にも思わなかった歴史を生んだというのである。

ウエディングケーキに関する伝統は、いまも脈々と受け継がれており、たとえば、花嫁が指輪を花婿のケーキの中に入れておくのは、彼を自分の夫として受け入れますという意思を象徴している。また、かつてはゲストがケーキカットやケーキを食べるセレモニーに参加しないのは、縁起が悪く、不作法であると考えられていた。ケーキの種類によってもそれぞれ象徴するものが異なり、フルーツケーキは家族や子孫繁栄のシンボルであり、白いフロスティングは純真さを象徴し、また、かつて白砂糖は高価であったことから、白いケーキも高貴さの証しとされていた。

ところで、現代のようなウエディングケーキが誕生したのは1882年のオールバニ公レオポルドの結婚式である。このケーキは精巧に作られていただけでなく、すべて食べられる、段状になった初めてのケーキであり、もちろん現在も使われている。また、花嫁が子孫繁栄を祈願してケーキカットをしたという言い伝えが残っており、花嫁が家庭を持つ準備が整った既婚女性として一歩踏み出す象徴だったという。なお、落ちたケーキの切れ